

《 令和5年度 PDCA サイクル実施計画・管理表 》

令和6年3月末現在

部署名	P 実施計画				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
					区分	実施内容	区分	次年度の改善内容	
がん相談支援センター	幅広い就労ニーズにこたえるための就労支援の充実と周知	患者に就労支援が十分認知されていない。支援ニーズには個別性が高いため、患者にとって望ましいタイミングで就労支援を提供する必要がある	1)患者にとって望ましいタイミングに就労支援を提供できる連携体制を作る ・初診前から始める患者家族への離職防止の周知(機関紙への同封、地域への配信継続) ・生活のしやすさに関する質問票を活用した連携 ・外来との連携 ・書類係との連携(休職診断書希望患者へのPR) ・病棟との連携(入院時、退院指導時をトリガーに、就労支援ニーズをキャッチし、相談窓口につなぐ。好事例の共有) ・わかりやすい患者提供資料の作成 2)院内全体で両立支援を進めるための基盤づくり ・診療科カンファレンスでの周知、連携依頼 ・就労ラウンドの拡大(3カ月ごとに1病棟ずつ) ・外来化学療法センター、看護外来との連携開始 3)部署内の人材育成	令和6年3月	○	概ね達成	特に病棟看護師との連携を強化した ・就労支援の重要性、病棟看護師の役割が理解できる資料を作り、全看護師に学習会を行った ・就労支援ラウンドをモデル病棟から始め、全病棟に拡大した。事例を通して支援を考える、成功事例の共有、病棟看護師の疑問に答えた ・がん相談支援センターで行う社労士の相談支援の実際を見学できる実習を企画、実施した ・病棟からの就労依頼が61件と増えた。患者からは「安心できた」「相談して良かった」という声が聞かれた	継続	・外来移行後に支援が途切れてしまう事例が散形された。今後の課題 ・病棟看護師が就労支援ニーズをキャッチする取り組みを継続し、さらなる定着を図る ・退院後、部署が変わっても支援が継続するよう、病棟-外来、看護外来や外来化学療法センターとがん相談支援センターの連携体制を作る
	患者家族に相談支援センターの認知が十分ではない	問題を抱えた患者家族が孤立しないよう、初診の早い段階から相談支援センターを認識できる体制が必要だが、現在、全初診患者・家族に周知できていない	1. 初診患者全員ががん相談支援センターを来訪するシステムを作り、運用する ・初診時から全患者が来訪できる流れ(フロー)を整備する ・マニュアル、フロー図、活用資料、来訪者の管理データベースを作る ・マンパワーの確保 ・運用しながら問題点を確認し、関連部署と共に改善を図る	令和6年3月	○	達成	4月から全初診患者ががん相談支援センターを来訪する運用を始め、数回の見直しを経て、2023年11月に体制整備が完了した。 ・地域医療連携室、初診窓口、外来受付、診療科クラーク、がん相談支援センターで協働実施している。来訪者は一月当たり約400名で、対象の94.5%にあたる	完了	
	都道府県拠点病院として(県内の)ピアサポートの人材育成と活用の推進を図る	兵庫県ピアサポーター養成研修修了者が、ピアサポーターとして必要な知識技術を体得して活動できるまでの基盤(仕組み)がない	・情報連携部会のピアサポート育成活用グループに所属する ・月1回あるグループ定例会に参加し、メンバーシップを果たす ・2024年度に兵庫県が主催するピアサポーター養成研修とフォローアップ研修の開催担当を務める ・上記に必要な研修に計画的に参加する。役割がとれるようにする	令和6年3月	○	概ね達成	・12月の情報連携部会で「ピアサポーターと相談員との交流会」を計画、開催できた ・運用面でいくつかの課題に気づいた	継続	・効果的効率的に実施できるようマニュアルを整備し、次年度、活用していく ・ピアサポート育成活用グループメンバーとして参画し、役割発揮する
	多様な相談ケースに対する相談技術・知識をみにつけ、相談対応能力の質の担保を図る	・相談員の異動に伴い、新しいスタッフが着任 ・相談員の対応能力に差がある	・誰が対応しても相談支援の質が担保できるよう、マニュアルの活用、整備、事例検討会、ミニ勉強会を行う。学びあえる環境づくり ・部内モニタリングの継続(年10回開催、2例/人) ・多職種カンファレンスで得た最新知識・技術を相談支援に活かす ・国立がん研究センター認定がん相談支援センターに必要な電話モニタリングを行えるよう準備する ・相談員を必要な研修に計画的に派遣する	令和6年3月	○	概ね達成	・新規に、相談員研修(1-2)修了者1名、(3)修了者2名、国立がん研究センター認定がん専門相談員申請1名を育成できた ・部内モニタリングも予定通り、年間10例実施できた ・日々の相談対応だけでなく、患者サロンの運営、アピアランスケア、就労支援など、できる業務が増えている	継続	引き続き、相談員の育成を図る

(注)実施管理・区分欄の記入について

C 評価における区分は、「達成」「概ね達成」「未達成」から、A改善における区分は、「完了」「継続」「その他」から、それぞれ1つ選んで記入する。

D 実行欄には、達成度等を考慮して、○、△、× を記入する。